様々な個性や困り感を
もつ生徒を支えるために

～松山高校での取組～

宮城県松山高等学校
特別支援教育コーディネーター
教諭　村上真由美

本日の内容

１　支える取組

２　育てる取組

３　これからの取組

４　まとめ

現在の取り組み（特別支援教育の視点で･･･）

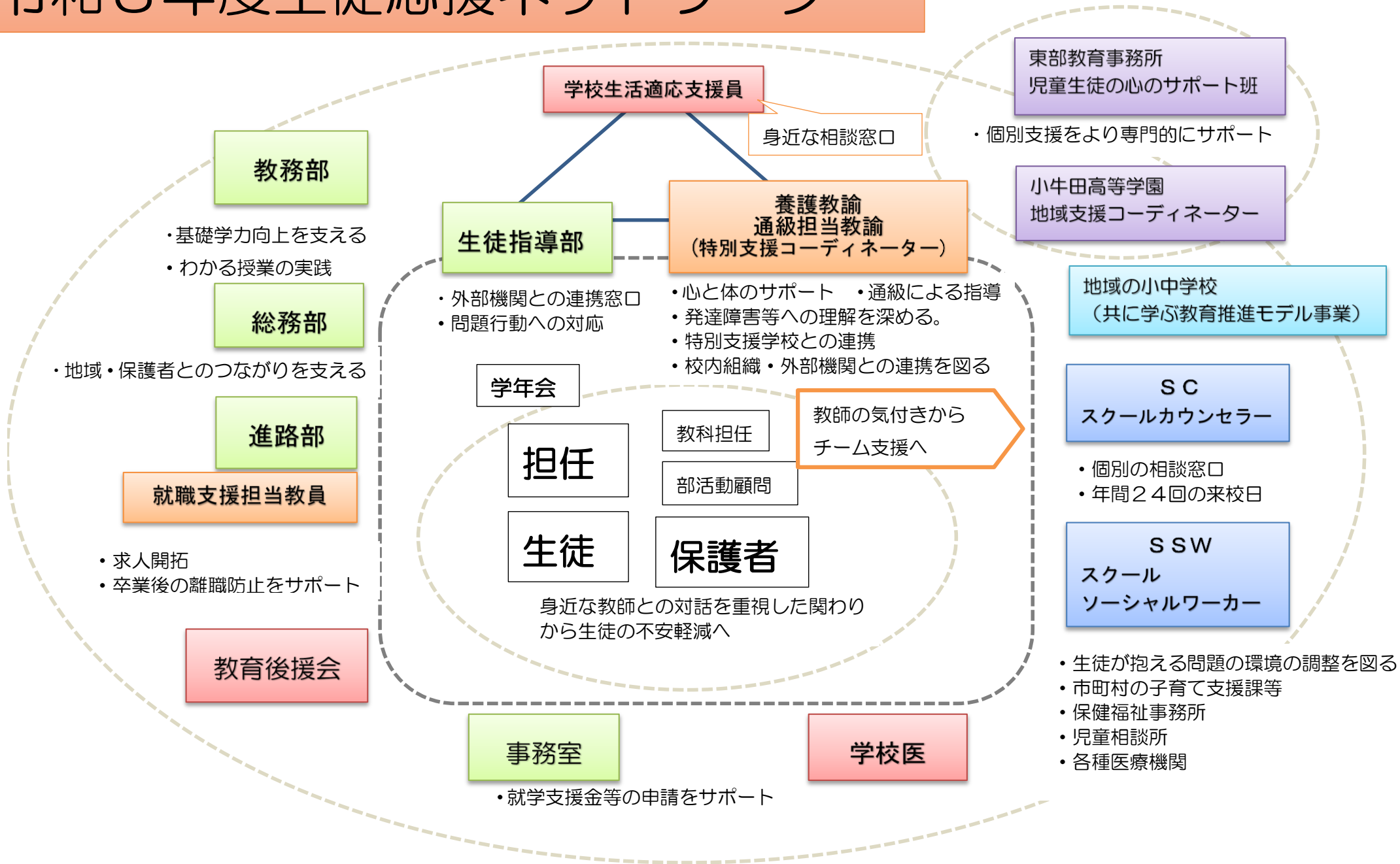
	活動・取り組み	ねらい
支える	「生徒応援ネットワーク」の構築	多くの目と手で生徒を育てる
	中学校との連携	生徒の引き継ぎ、移行支援
	ほっこりカフェ	ほっとできる居場所、コミュ
	SSTゼミ	小集団でのSST
	サポ松（通級による指導）	個別学習による自立活動、スキル向上
	令和３～５年度共に学ぶ教育推進事業	UDL推進、地域の小中高連携
育てる	ちゃれんじ松高生、ONE UPゼミ	進路学習、SST、チャレンジ
	生徒会企画行事：全校クイズ大会	コミュニケーションスキルの向上
	サブT面談	コミュスキル、新たな出会いを得る

１　支える取組

松高スタイル基本理念

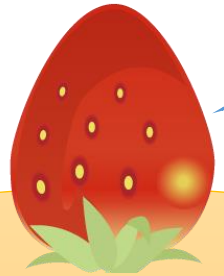
- 必要な生徒にタイムリーに支援を入れる。
- 障害の有無によらず、生徒の困り感に寄り添う。
- 生徒の自尊心を尊重する。
- 全ての職員で取り組む。
- 支援の段階を作り、保護者と連携して指導に当たる。
- SC、SSW、関係機関との連携により、より良い支援を探る。

令和３年度生徒応援ネットワーク



松山高校の支援モデル

社会的・職業的自立



松山スタディサポート
“サポ松”

SSTゼミ

ほっこりカフェ

１対１の個別指導
個別の課題に対応
＊通級による指導

少人数のグループ学習
SST
コミュニケーション
必要な生徒に声掛け
希望者　　週１回

学校Café
会場：図書室
居場所づくり
おしゃべり
ボードゲーム　等
自由参加　月１回

ふんわり支援

松山高校の支援モデル

中高連携

地域との
連携

昼休みの
見守り（巡回）

教職員間の
情報共有

忘れ物への
対応

高校生活
適応支援員

声掛け

居場所づくり

支援されていると気が付かない
程度の支援・配慮

＝ ふんわり支援

松山高校の支援モデル（ふんわり支援）

教職員間の情報共有	アンケート結果、困り感の共有
中高連携	情報交換会
地域との連携	１学年：地域調べ、社協との協働 教育後援会　見守り
高校生活適応支援員	昼休みの見守り（巡回） 忘れ物への対応 心のケア
声掛け	生徒一人一人への声掛け
居場所づくり	教室以外にも居場所を作る

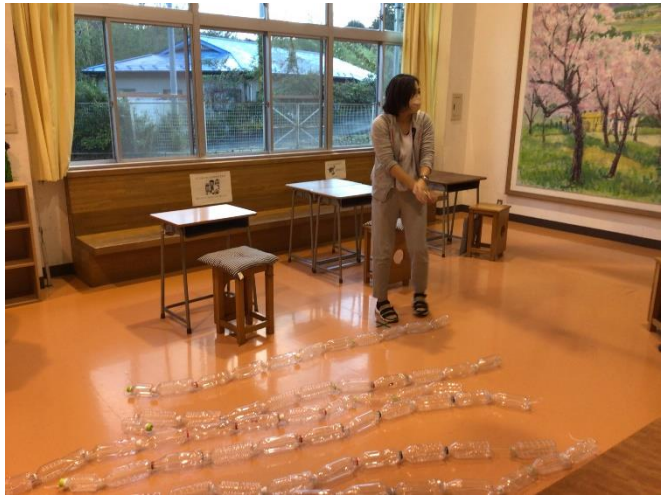
学びにくさの理解

居場所づくり

2F　廊下

相談室：昼食・放課後

3F　コモンホール



1F　コモンホール

図書室

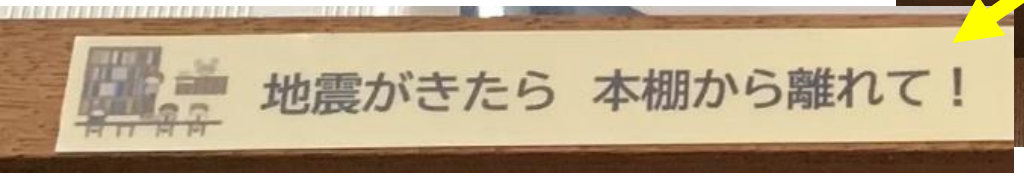
居場所　＝　場
＆　人

学校図書館でのUD対応

使わないかもしれない。でも、困り感に気づかない生徒が
使えたらいいな、という視点で運営しています。

①書架サイン

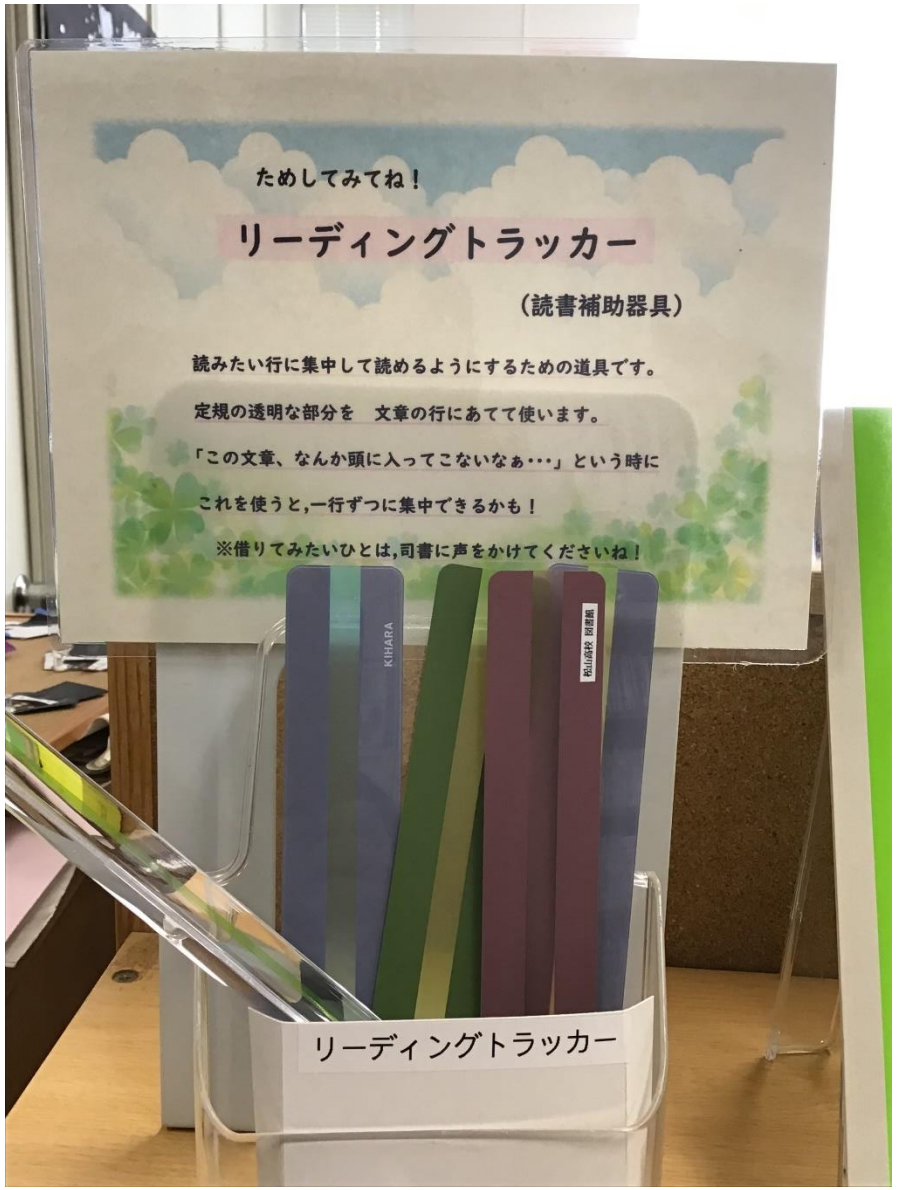
ピクトグラム（絵記号）



フォントの工夫

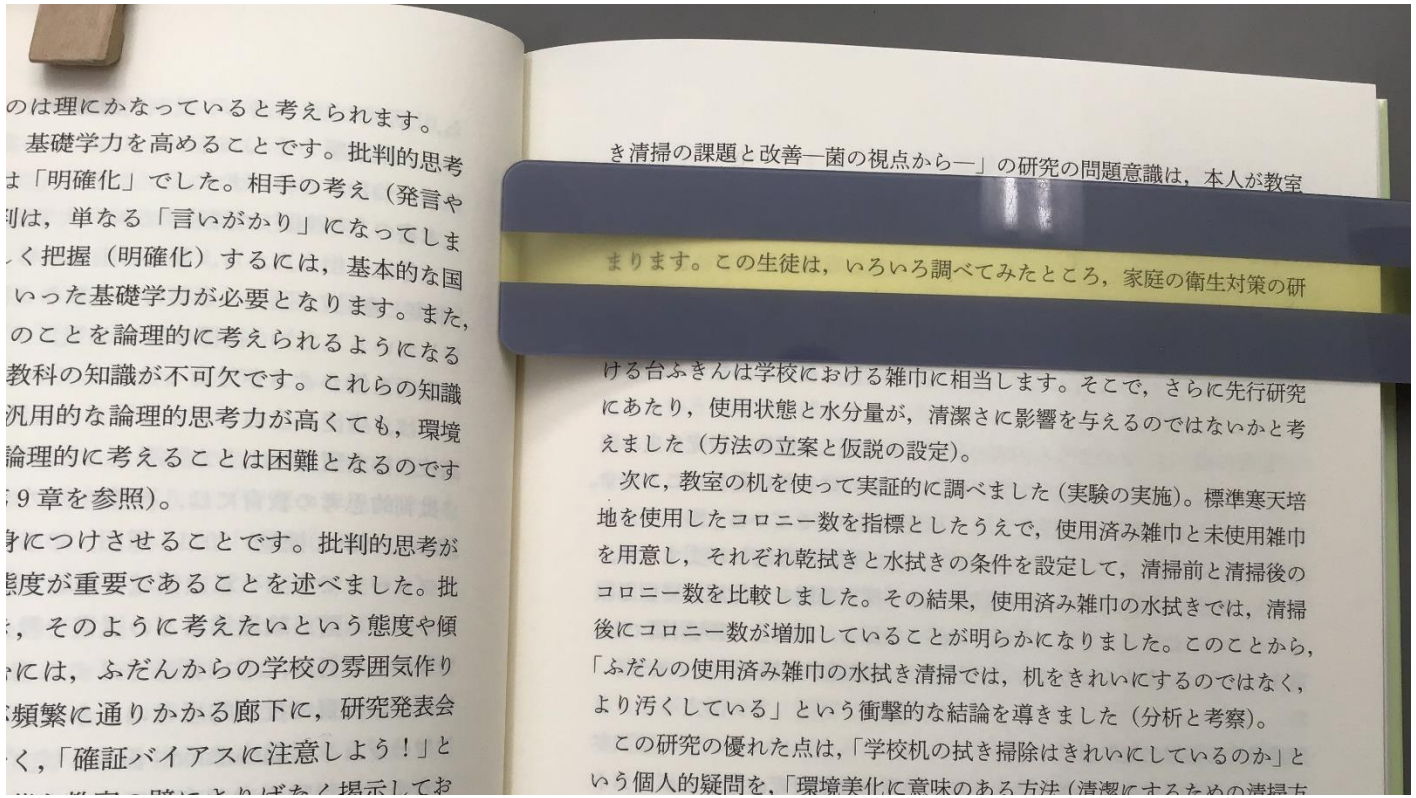
UDデジタル教科書体
ゴシック体　など

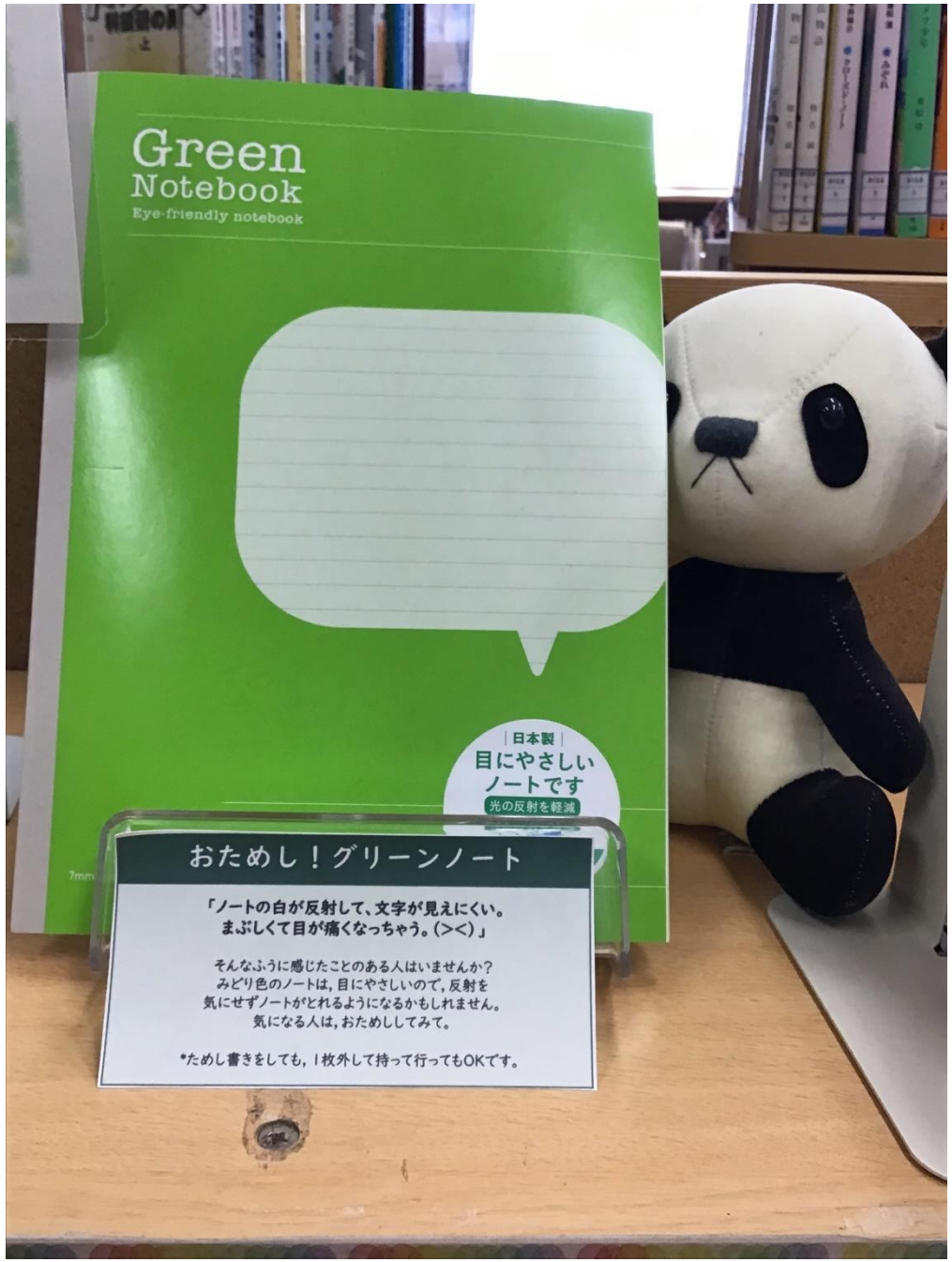
②読書補助具など



リーディングトラッカー

行を飛ばしてしまったり、歪んで見えるなど読みづらい人のために。





グリーンノート

（2019.6.19のTwitterより）

「私は視覚過敏があるため、白いノートをあまり使いたくありません。ノートの白が光を反射し、鉛筆の線が見にくくなるからです。……　（略）」

③LLブック（やさしく読める本）

エルエル
LLというのはスウェーデン語のレットレースト
Lättläst「やさしくよめる」をみじかくしたものです。

者が、やってきました。

諒子さんは、
「おはようございます」と あいさつをしながら、
お茶を 配ります。
このお茶も、諒子さんが いれました。

りょうこ

はこぶ

ちゃ

午前10時30分

レクリエーションの 時間に なりました。
たいそうや クイズを します。

諒子さんは、レクリエーションの 司会を
まかされています。
「みなさん、おはようございます。
まずは 足ぶみを しましょう」と、諒子さん。

りょうこ

りょうしゃ

たいそう

15

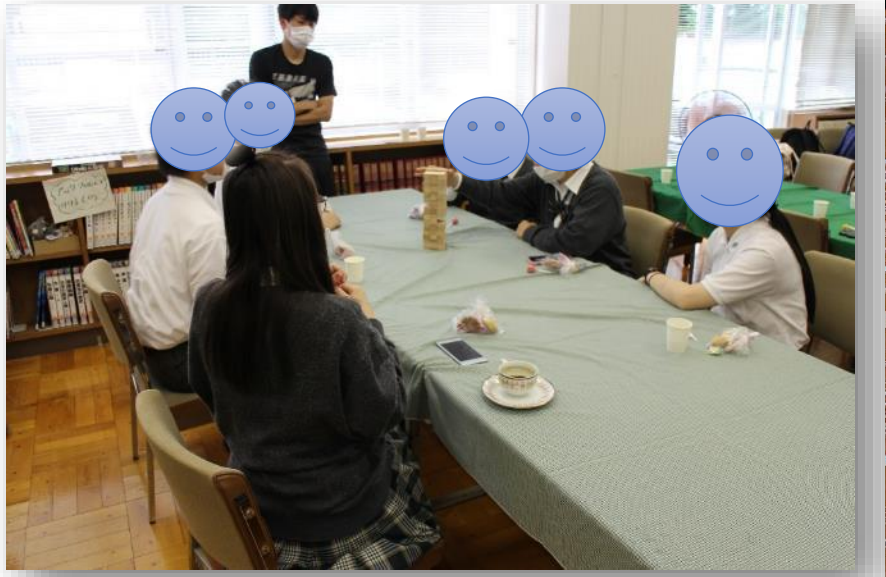
※コンセプト

知的障害のある人、母語の異なる人に、年齢にあったさまざまな本を届けたい。

ほっこりカフェ

対象生徒　全校生徒（申し込みなしのフリー参加）
ねらい　　生徒の居場所作り
　　コミュニケーションの経験を積む
内　容　　高校Cafｅ
　　（ボードゲーム、読書、おにぎり作り、季節行事　等
　　思い思いに自由に過ごす）
経　費　　１回２０００円程度（教育後援会）
経　過　　SSW、学校司書、養護教諭、生徒指導部を中心に昼食を持ってこない生徒や生活経験の少ない生徒に、軽食やおやつを提供しながら、生活経験とコミュニケーションの場としたいと考え、令和元年度から始めた。
神奈川県立田奈高等学校の“ぴっかりカフェ”を参考

ほっこりカフェの様子



SSTゼミ（ソーシャルスキル・トレーニング）

対象生徒	全校にチラシを配布して周知する 気になる生徒には個別に声掛けをして参加を促す
参加生徒	通級生徒３名＋ニーズのある生徒（入れ替わりあり）
指導内容	SSTの手順を踏まえつつ、自由な雰囲気の中で他者とのかかわりの楽しさを体験できるようにする
合意形成	本人と保護者の同意の上で参加 同意書等はとらない
実施日	週１回
使用教室	視聴覚室または生徒相談室
情報共有	職員会議で参加者と内容を報告 担任と情報交換・報告

ＳＳＴゼミの様子

手づくりすごろく
⇒やり取りの練習

クリスマス会の企画と運営
＊先生方を招待して、ビデオ鑑賞とボードゲーム

松山町ペットボトル・イルミネーションへの参加

＊ゼミ受講者以外の生徒とも協働

SSTゼミの学習内容（例）

題材　・ねらい	取組の様子
大きなすごろく ・物を介した言葉のやりとりを通して、コミュニケーションを経験する。	「〇さん、〇〇をとってください」「コマを進めてください」等の台詞を限定したことで、話すことができた。
ボードゲームをしよう ・ゲームをしながら、声掛けができるようになる。	人狼ゲーム、なんじゃもんじゃゲームをしながら、「次〇〇さんだよ」等の言葉が出るようになった。
挨拶の練習	３年生をゲストに迎えてお手本を示してもらった。
クリスマスパーティーをしよう ・企画から実行まで、互いの意見を尊重しながら取り組む。	生徒からの要望で行うこととした。話し合い活動中に、何度か教師が介入する必要があったが、買い物の分担や当日の係など、それぞれ責任をもって取り組んだ。
人との関わりを考えよう ・日常生活の中で起きた（起きそうな）場面のロールプレイを通して、トラブルの回避と対処について考える。	楽しんで演技し、客観的にその場面を捉えることができていた。トラブル回避について、一人一人自分の考えを述べることができた。汎化ができているとはいいがたい。

通級による指導（通称：サポ松）

実施日	：	月曜日（放課後）	
		水曜日（放課後）（おためし中）	
		金曜日（放課後）	
		毎日　（放課後１５分）	
単　位	：	認定していない　（R４年度から認定）	
指導体制	：	指導担当	通級指導担当者
		日々の指導	担任、学年、教科
		指導の報告	生徒支援委員会
			職員会議
			担任との情報交換
		ケース会議	学年主任、担任、通級担当

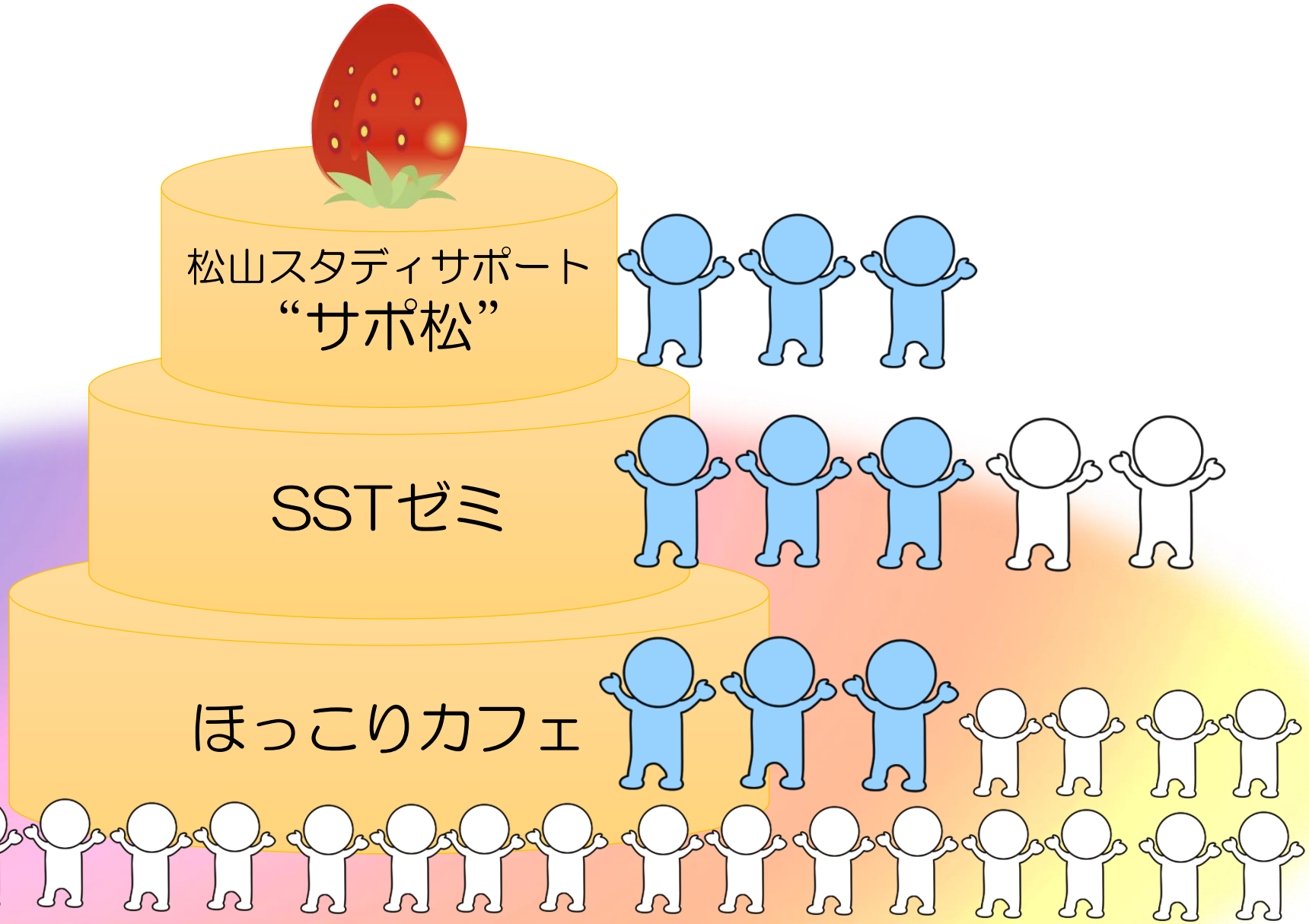
通級による指導の内容

目　　標	学習内容（前半）	学習内容の変更（後半）
自分から話しかけることができる	①1対1で会話の練習をして、ＳＳＴゼミで話す対象を拡げる。 ②自信がもてるよう、得意を伸ばす。	SSTゼミの中で役割をもち， 他者に話かける場面を設定する。
提出期限を守って提出物を出す	①手帳を使って，日々の予定を把握できるようする。 ②メモをとれるよう練習をする。	①携帯電話を使ってスケジュール管理をする。 ②携帯電話のアプリでメモをする。
毎日遅刻をしないで登校する	①毎日の振り返りをする。 ②翌日（週）の予定の確認をする。	①就寝時間や起床時間など、生活サイクルを記入して、自分の生活を振り返られるようにする。 ②トラブルがあった日は、コミック会話等を使って、何があったのか、どうしたら良かったかを振り返る。

通級対象生徒と各活動の関係

通級対象生徒

その他の生徒



２　育てる取組

ちゃれんじ松高生（H27～）

開催時期　６月・３月

対　象　　６月：全校生徒　　３月：　１・２学年

目　的　　様々な活動を通して、人との関わりや自己研鑽能力を高め、
今後の日常生活や進路活動に生かしていくことを目的する。

これまで行ってきた活動内容

ONE UPゼミ、全校クイズ大会、サブT面談、
自分のトリセツ作り、自己分析、SST、SPI、他己分析、
松高について、ビブリオバトル、身だしなみセミナー、
模擬面接、企業による業種説明会、業種説明会発表会、
進路フェスタ参加、バレーボール大会、学年行事

など

ONE UPゼミ

開催時期　６月・３月

対　象　　６月：全校生徒　　３月：１・２学年　　（全職員）

目　的　　授業では取り上げないことや経験できないことに挑戦して、自分の興味関心の幅を広げる。他クラスや他学年の生徒との交流を通して、人間関係づくりの一助とする。

これまで行ってきた活動内容（例）

美術：染物　　音楽：ハンドベル　　本：POPづくり

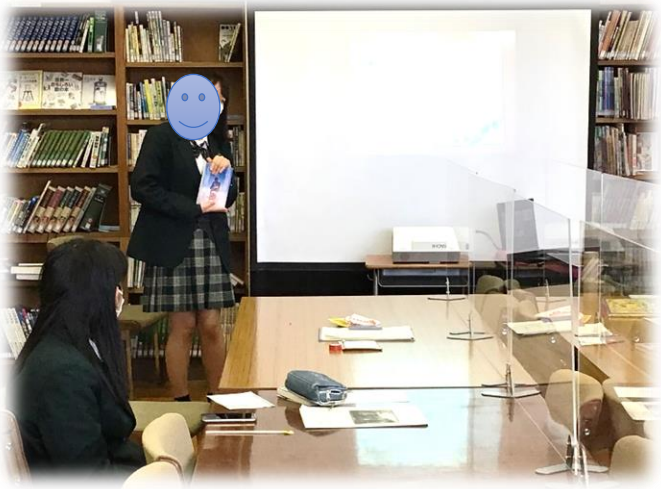
手芸：ビーズ作品作り、折り紙　　ボランティア活動

体育：ラクロス体験、バレーボール

ボードゲーム、パズル、　　など

R２年度　３月

本：おすすめ本のPOPづくり
　　POPの作り方
　　制作・発表



美術：染物
　　染色の工程について
　　染色体験
　　・・ハンカチを染色

全校クイズ大会

１０種類のクイズカード
全５問
（例）学校の時計の数
自分の名前の菓子を探す
両方クリアでゴール
優勝クラスにアイス券

サブT面談

開催時期	３月
対　象	１・２学年
目　的	日頃接点を持っていない教職員と面談を行い、担任や部活動顧問といった、いつもの教職員ではない大人と接することで、相談できる人を増やしていくことを目的とする。
担当者	事務室を含め、ほぼ全ての職員

３　これからの取組

共に学ぶ教育推進モデル事業　第3期（R3～R5）

指定期間　令和３年度～令和５年度

指定地域　２地区６校

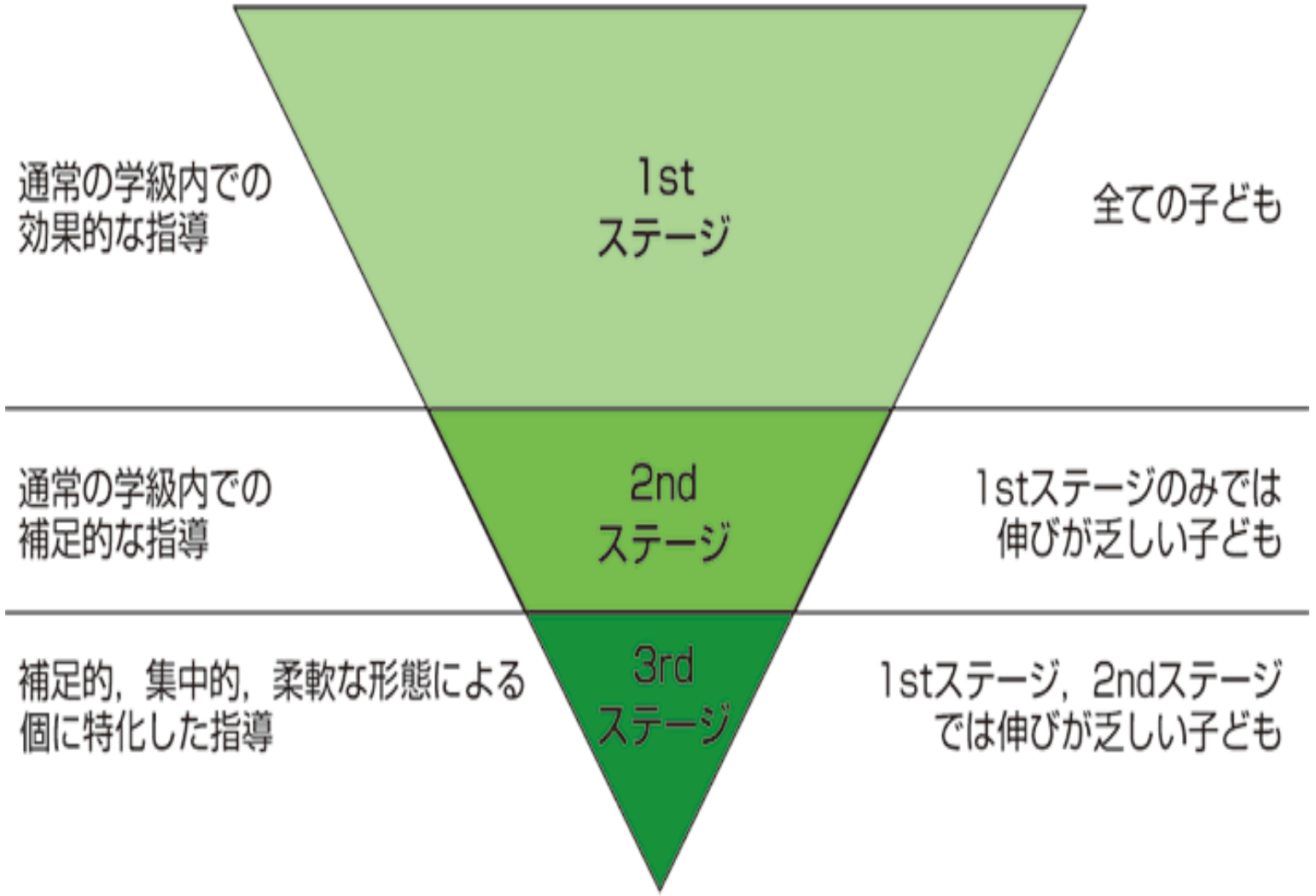
角田地区：桜小、北郷小、北角田中、角田高

大崎地区：松山小、松山中、松山高校

テーマ　地域への広がり・ユニバーサルデザイン

共に学ぶ教育推進モデル事業（R３～R５）

MIM（Multilayer Instruction Model多層指導モデル）



ユニバーサルデザインの視点を入れた授業づくり

これまでの取組を更に充実させる

参照：独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所HP

今年度の取り組みから・・・

１　ユニバーサルデザインについての職員研修

「高等学校における特別支援教育

～ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業作り～」

①　講師：東北福祉大学教育学部　教授　大西孝志　氏

②　講師：東北福祉大学教育学部　教授　大西孝志　氏

③　講師：宮城県立支援学校小牛田高等学園　教諭　浅野彩子　氏

⇒ワークショップ「自分の授業でUDを取り入れるとしたら・・・」

２　教室環境のユニバーサルデザイン

３　UD授業参観（校内授業公開）

7月28日（水）２学年の教室を構造化！

＜メンバー＞
村上、高橋、阿部、中野、三浦
佐藤夏、大場、大内、柴田

＜参考＞
「授業のユニバーサルデザイン入門」
小倉聡・桂聖　著
東洋館出版社

コンセプト

場の構造化

刺激量の調整

＜教室前方＞

左側：点鐘（色分け）

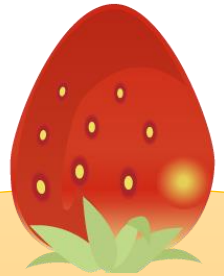
右側：時間割・時間割変更・提出物
生徒心得・格言

＜教室後方＞

クラスの木
手帳ポスター
各種お便り
月予定
連絡事項

４　まとめ

学校全体で取り組む



松山スタディサポート
“サポ松”

SSTゼミ

ほっこりカフェ

通級担当
特別支援Co
学級担任
生徒指導部（支援班）

通級担当・特別支援Co
生徒指導部（支援班）
学級担任　学年主任
職員全員

ほっこりカフェ
プロジェクト
職員全員
教育後援会

全職員による！
きめ細やかな観察
情報共有
生徒との面談
分かりやすい授業
居場所づくり

大切にしていきたいこと

生徒の自尊感情への配慮

保護者との協働・理解

インクルーシブの推進

全職員で取り組む

単位の履修と習得の理解

教科の特性を生かしたUD

職員の共通理解
目線合わせ

生徒理解・障がいの理解

マインドシフト

ご清聴ありがとうございました